

サステナビリティ円卓会議 in 四日市

～持続可能な産業と暮らしのあり方を考える～

2016/1/28
@四日市公害と環境未来館

○プログラム

1) 14:00-14:10 開会・趣旨説明

2) 14:00-15:10 事例報告

14:00-14:25 「持続可能な社会を目指した環境技術移転による国際貢献」

国際環境技術移転センター総務部 環境広報課 参事兼課長 松永馨氏

14:25-14:40 「持続可能な地域づくりのための市民アクション」

四日市再生「公害市民塾」 伊藤三男氏

14:40-14:55 「国連の新目標に向けた国内での取組み」

環境パートナーシップ会議 副代表理事 星野智子

14:55-15:10 「企業と市民の連携」

博報堂 広報室 CSRグループ 推進担当部長 川廷昌弘氏

15:10-15:20 休憩

3) 15:20-16:10 全体ディスカッション(50分)

テーマ：持続可能な産業と暮らしのあり方を考える

4) 16:10-15:25 まとめ・閉会

「国連の新目標に向けた国内での取組み」

サステナビリティ円卓会議 in 四日市

一般社団法人 環境パートナーシップ会議 (EPC)

星野智子

2016/1/28

@四日市公害と環境未来館

国連新目標：SDGs (Sustainable Development Goals : エス・ディ・ジーズ)とは？

- リオ+20 (2012) でSDGsの策定を合意。
- ミレニアム開発目標 (MDGs、2015年が達成期限) に代わる開発目標。
- MDGsとの違い：開発の3つの側面 (経済、社会、環境) に統合的に対応
- 先進国・途上国すべての国を対象とする普遍的なもの。
- 行動志向型、かつ野心的な目標
- SDGs提案の背景：人間の生存はあくまで健全な地球環境が基盤。その環境が限界に直面。持続可能性の観点を開発目標に組み込んでいく必要。
- 17テーマ、169項目で構成。

国連の手による、「望まれる未来」の合意形成。



地球公共財の取り扱い。

所得の再分配、利他。

SDGs策定プロセス

持続可能な
開発目標
2015-30

採択

国連総会
ポスト2015サミット

15年9月

政府間交渉

毎月1週間、7
月までに8回
会議

事務総長
統合報告書

14年12月

資金専門家委員会
報告書

OWG報告書

資金専門家
委員会
(ICESDF)

国連 オープン・
ワーキング・グループ

リオ+20

ハイレベルパネル
報告書

ポストMDGs



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

1 貧困をなくす

2 飢餓をなくす

3 健康と福祉

4 質の高い教育

5 ジェンダー平等

6 きれいな水と衛生

7 誰もが使える
クリーンエネルギー

8 デーセント・ワーク
と経済成長

9 産業、技術革新、
社会基盤

10 格差の是正

11 持続可能な
まちづくり

12 持続可能な
消費と生産

13 気候変動への
アクション

14 海洋資源

15 陸上の資源

16 平和、正義、
有効な制度

17 目標達成に向けた
パートナーシップ

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

- 1 貧困解消
- 2 栄養改善と持続可能な農業
- 3 健康な生活と福祉
- 4 教育と生涯学習
- 5 ジェンダー平等と女性支援
- 6 水の使用と衛生の保障
- 7 持続可能な現代的エネルギーへのアクセス
- 8 雇用とディーセント・ワーク（適切な雇用）
- 9 インフラ構築、産業化の促進
- 10 国内及び国家間の不平等
- 11 都市と人間居住
- 12 持続可能な生産と消費（SCP）
- 13 気候変動のための緊急対策
- 14 海、大洋と海洋資源
- 15 生物多様性の保全
- 16 司法へのアクセスとガバナンス
- 17 地球規模のパートナーシップ

国際プロジェクトへの貢献

出典：環境省

SCP10年枠組(10YFP)

ヨハネスブルグ実施計画(2002年)において国際的合意、Rio+20(2012年、成果文書「The Future We Want」)にて採択。

6つの「プログラム」

- 持続可能な公共調達(2014年4月発足)
 - 消費者情報(2014年7月発足)
 - 持続可能な観光、エコツーリズム(2014年11月発足)
 - **持続可能なライフスタイル及び教育(2014年11月発足):**
 - co-lead : 日本(環境省)、スウェーデン、WWF**
 - 持続可能な建築・建設(2015年発足予定)
 - 持続可能な食糧システム(2015年発足予定)
-
- トラストファンド: 10YFP全般、プログラム、プロジェクトの実施に必要な資金
 - クリアリングハウス: プログラム、プロジェクト等の情報ポータル
 - 10YFP事務局(UNEP・パリ)
 - 理事会(日本は理事会メンバー)



人間の生存は健全な地球環境が基盤
グリッグス他
2013年



日本の直面する主な課題

- 自治体消滅の危機
- 労働人口の減少
- 社会保障の負担増加
- 一次産業衰退による里地里山の多様性低下
- 女性の地位（ジェンダーギャップ指数が136カ国中105位）

一方の世界は、若く活力ある世界

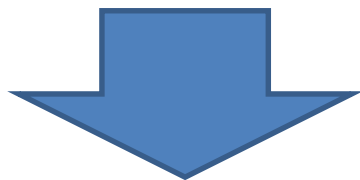
世界のどこも体験したことのない状況

課題先進国である日本の解決策を世界は注視している

SDGs を、地域課題を発見・解決するきっかけに
• • •

①地域で議論していくためのきっかけ

②海外との共通項と違いを知る材料



地域における重要課題は何か？

課題は地域内の関係者と共有できているか？

課題の解決策や目標は設定されているか？

役割分担は？そこからの学びは？

自分の地域のための、地域による
持続可能な“地域”目標づくりを各地で、
MSP(マルチステークホルダープロセス)で。

多様な主体とつくる

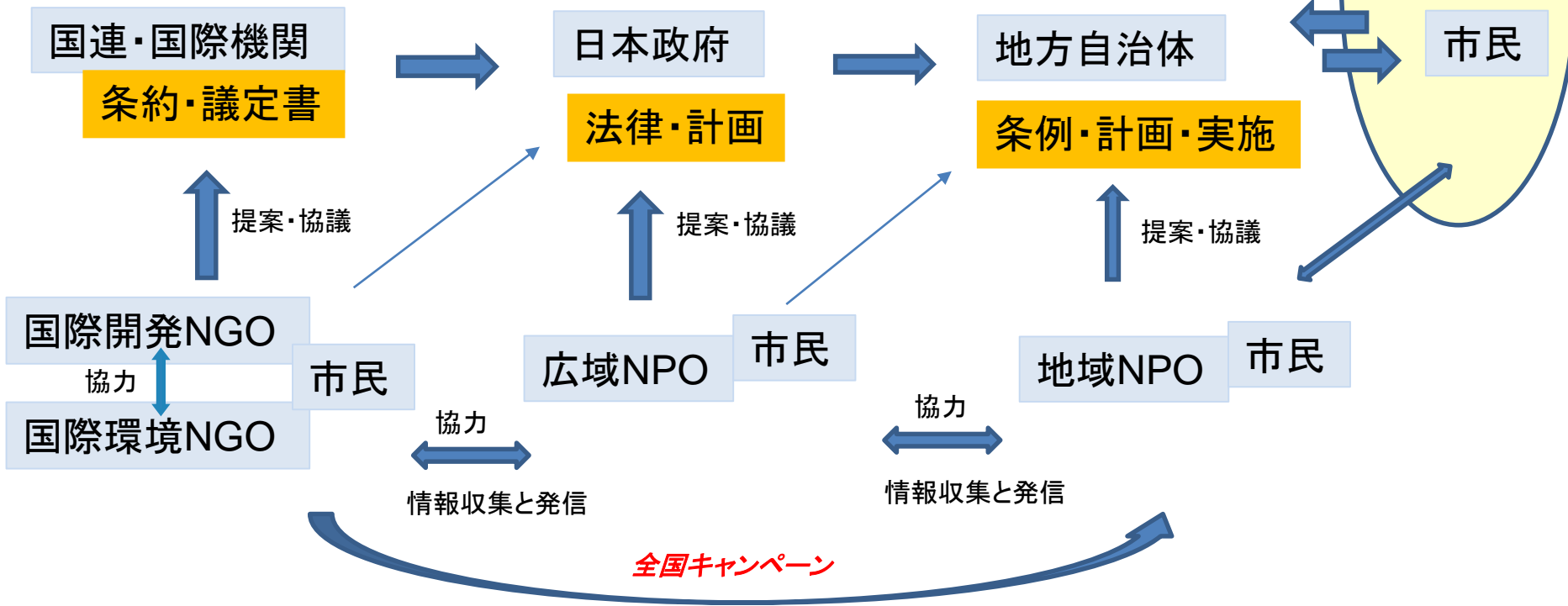
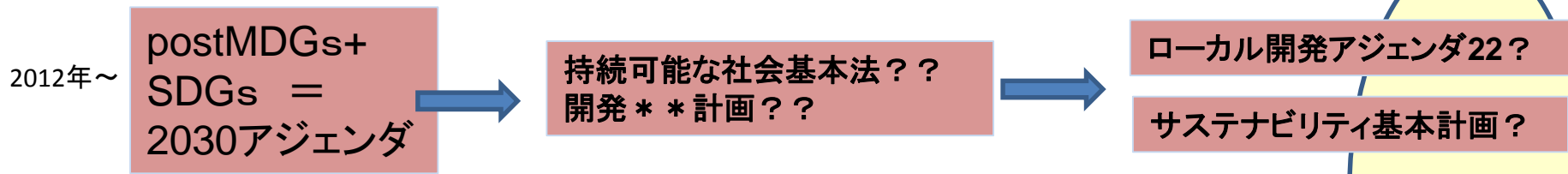
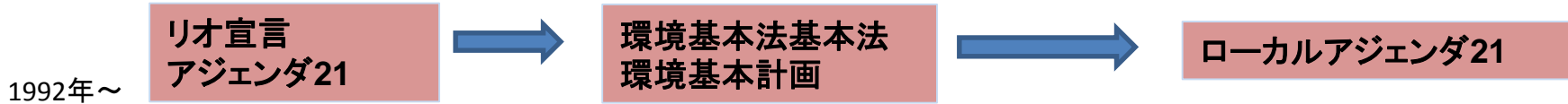
- 地域全員に関わること。
- 役割分担。資源を出し合う。

パートナーシップで

- 1人、1組織、1セクターでは解決できない課題がある。
(→相乗効果を上げていかないと間に合わない)

これに関わること自体が
ESD(持続可能な開発のための教育)そのもの。
Education for
Sustainable “Community”
Development
(地域の発展)

SDGsじゃなくて
SCGsづくり?
Sustainable
Community
Goals



サステナビリティ円卓会議
～日本における持続可能な開発目標を考える～
2015/10/14(水)@GEOC

- 日 時:2015年10月14日(水)15:00～17:00
- 会 場:GEOCセミナースペース(渋谷区神宮前5-53-70 国連大学ビル1F)
- 主 催:一般社団法人 環境パートナーシップ会議(EPC)
「社会的責任向上のためのNPO/NGOネットワーク」(NNネット)

○プログラム

- 1)国連総会報告(外務省地球規模課題総括課 田村政美課長)
- 2)SDGs実施に向けた国内外の動きについて(環境省国際連携課 瀬川恵子課長)
- 3)ステークホルダー会議

自治体:環境自治体会議環境政策研究所所長 中口毅博氏
NGO:日本NPOセンター/NNネット 新田英理子氏
労働組合:連合 国際局長 鈴木宏二氏
ユース:慶應義塾大学博士課程1年 カン・ソンウ氏

進行:今田克司氏(日本NPOセンター) & 星野智子(EPC)

詳細

> <http://sus-cso.com/>



2016年G7伊勢志摩サミットに向けて

2015年3月採択の「仙台防災枠組2015-2030」、同年9月採択の「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」、12月の「国連気候変動枠組条約締約国会議第21回会合(COP21)」で合意された地球温暖化防止に関する新しい国際枠組「パリ協定」に代表される、防災・開発・持続可能性・環境などの主要な課題に関する国際目標を受けて開催される初めてのサミット。



2016年G7伊勢志摩サミットに向けて

市民社会として国際目標の達成に向けた政治的意思がG7サミット諸国から示されることを求め、同時に、アジア唯一のサミット参加国として、日本政府が世界の開発課題に対する応分の責任と行動を具体的に示すことも重要だと考え、各市民社会組織(CSO)が行う上で、円滑な情報共有や相互連携を促進するために、「2016年G7サミット市民社会プラットフォーム」を設立し、幅広い参加を呼びかけます。

本フォーラムの活動内容

- (1) G7伊勢志摩サミットに関する情報を収集し、国内外のCSO間での共有を促進する。
- (2) G7伊勢志摩サミット開催まで、および開催後に日本政府との意見交換会を実施する。
また、必要に応じてG7各国政府との意見交換の機会も持つ。
- (3) G7伊勢志摩サミットに関する公開イベントを開催する。
- (4) G7伊勢志摩サミットに関心を持つ海外のCSOとの連絡・調整・必要な情報 提供を行う。

2008年のG8 環境大臣会合 (5月24～26日)神戸



5月23日国際シンポジウム
「ひょうごから洞爺湖へ
持続可能な未来を目指して！
—地球市民社会からのメッセージ—」



環境大臣との対話